

○事業所名	こどもひろばeポーポー		
○保護者評価実施期間	令和7年11月4日		～ 令和7年11月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和7年11月4日		～ 令和7年11月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月29日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自由遊びや活動を行う際、職員の決めたルールだけではなく、利用児それぞれの意見を出し合い全員で取り組める環境を設定している。それにより、コミュニケーション能力や社会性の向上が行えるよう支援を提供している。	翌月の活動を利用者と一緒に考える工夫を継続し、実際の活動場面でも利用児の考えや思いを、周囲へと仲介等を行っている。場に入れない場面では従業者が間を取り持つことで参加しやすいように取り組んでいる。苦手な活動にも挑戦できるように、利用児それぞれに対応した声掛けや促しを意識して行っている。	今までの活動のブラッシュアップを利用児と一緒に考えることや、積極的に新しい活動を取り入れることで、さらに社会性やルール理解、コミュニケーション能力の向上を図れるよう取り組む。
2	利用児やその保護者のニーズや課題を踏まえた計画書に基づき、利用児個人に合わせた支援を個別と集団で提供している。またその様子等を保護者に伝達し、連携を取ることでより個人に合わせた支援を検討、提供している。	利用児のモニタリング会議以外の場においても、日常的に意見の交換や連携を取れるよう送迎時の伝達や家族支援等を使用し、従業者間や保護者との連携を意識的に行っている。	従業者間において、さらに密な伝達や連携を行っていくために、細かな気付きやより良い提案を行えるように心理的安全性の確保を図る。
3	すらら学習や個人の課題に取り組む事で、学習する習慣を身に付け、本人の苦手な分野での成功体験を共有し、学習意欲の向上や苦手なことへ挑戦する環境を設定している。	利用児それぞれへの課題を用意し、個別でも小集団でも行えるように環境設定をしている。また実施した課題を適宜持ち帰り、保護者へと家族支援等を通して伝達する場面を設けている。また個別での学習場面では、パーティション等で空間を分け、集中できる環境を提供している。	利用児それぞれに合わせた成功体験を積めるように課題の内容の検討を図る。また従業者に対して分からない課題等を聞きやすい環境の設定を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児の特性における理解や知識の強化が必要となっている。	法人内での研修があるも、特性へのより深い理解と知識を得る機会を設けることが多くない現状がある。	障害特性の研修等を行い、現利用児への理解を深め利用者への支援の検討をより密に行っていけるよう取り組む必要がある。
2	利用者の保護者同士の交流の場等や設定出来ていない。	事業所の人員と保護者の都合等を合わせていくことが難しい。	事業所内の人員の確保と見直し、保護者同士の連携を仲介していけるよう検討を行う必要がある。
3	車椅子等の使用出来る環境設定が出来ていない。	事業所自体の構造がバリアフリーに適應していない。	事業所内の段差の改善方法やトイレ時の車椅子の角度や移乗方法、自走時のリスク軽減を図る。